

## トレーディア株式会社

## 第92期 報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

## 株主の皆様へ



代表取締役社長  
古郡 勝英

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第92期（2022年3月期）の連結業績と取組状況についてご報告申し上げます。

物流を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、グローバル化、多様化はさらに加速しております。私たちは、常にお客様の視点・目線に立ち、複雑なロジスティクスをシンプルに、海貨系国際物流事業者としてトータルな視点から最適な物流をご提案することで、日常活動を通して世界の産業と人々の暮らしに貢献してまいります。

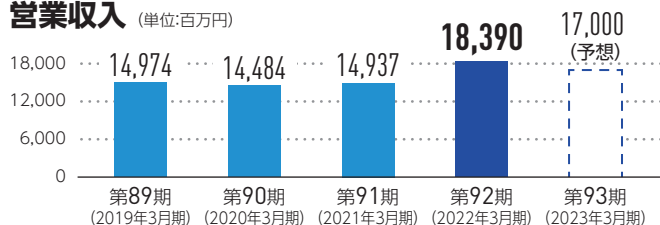
当社は、2021年4月1日をもちまして、設立80周年を迎えました。これもひとえに株主の皆様をはじめ、関係各位の長年にわたるご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

今後とも、株主の皆様のご期待に沿うことができますよう努めてまいりますので、格別のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

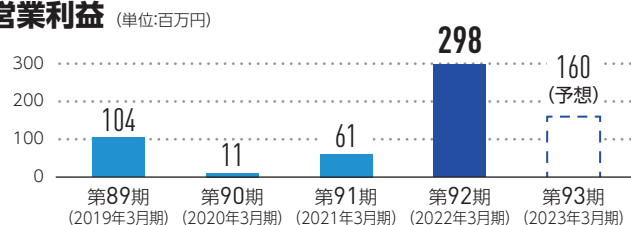
2022年6月

## 連結財務ハイライト

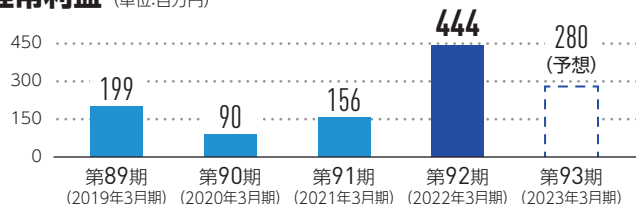
## 営業収入 (単位:百万円)



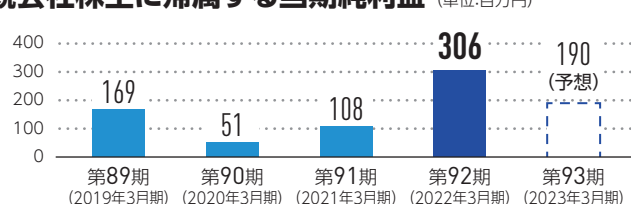
## 営業利益 (単位:百万円)



## 経常利益 (単位:百万円)



## 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



## 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の拡大や新生活様式の定着などに伴い、経済活動の正常化が進み、総じて緩やかな回復基調にありました。一方、新たな変異株の蔓延による感染再拡大やウクライナ情勢などの地政学的リスクを主要因とした資源価格の高騰、半導体不足など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが属する港湾物流業界における貿易に関しましては、輸出は外需先行で引き続き堅調に推移していくものと予想されますが、輸入は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、個人消費全体が足踏み状態となったことから、一般消費財等の貨物量の回復には時間を要するものと考えられます。また、国際物流を担うコンテナ船による海上輸送においては、感染拡大に伴う都市ロックダウンや、貨物量の急回復によるコンテナ不足、本船スペース不足により、物流網が混乱しており、依然として収まる兆しが見えない状況となっております。

当社グループは、このような不安定な状況の中、従業員の安全に配慮しつつ、リモートワークやオンラインでの商談を活用しながら積極的な営業展開に努めてまいりました。その結果、輸出部門の回復と国際部門の牽引により、総取扱量は前年同期比1.4%増加し、営業収入は183億90百万円余（前年同期は149億37百万円余）となりました。

損益面につきましては、営業総利益は前年同期比28.3%増加し10億27百万円余（対前年同期2億26百万円余増）となり、一般管理費も減少した結果、営業利益は前年同期比386.0%増加し2億98百万円余（対前年同期2億36百万円余増）、経常利益は前年同期比184.2%増加し4億44百万円余（対前年同期2億88百万円余増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比182.3%増加し3億6百万円余（対前年同期1億97百万円余増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。なお、当連結会計年度の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。これに伴い、従来の会計処理と比較して、当連結会計年度の営業収入は「輸出部門」で14百万円、「輸入部門」で1億32百万円減少するため、営業収入については、前連結会計年度と比較しての増減額及び前年同期比（%）を記載せずに説明しております。当該変更により、営業費用も営業収入と同額減少するため、セグメント利益又は損失に与える影響はありません。

### ①輸出部門

輸出部門におきましては、半導体不足や新型コロナウイルスの感

染拡大に伴うロックダウンにより部品調達の停滞、生産調整が行われたものの、世界的に自動車産業等のサプライチェーンは通期にわたっておおむね堅調に推移し、機械機器製品の取扱量が増加したため、輸出部門の営業収入は27億49百万円余（前年同期は26億13百万円余）、セグメント利益は25百万円余（前年同期はセグメント損失85百万円余）となりました。

### ②輸入部門

輸入部門におきましては、前期特需となった新型コロナウイルス関連資材の輸入も落ち着き、当期は度重なる新型コロナウイルス感染拡大による国内消費低迷により一般消費財の荷動きが鈍く、繊維製品、雑貨を中心に取扱量が減少したため、輸入部門の営業収入は50億11百万円余（前年同期は54億36百万円余）、セグメント損失は75百万円余（前年同期はセグメント利益9百万円余）となりました。

### ③国際部門

国際部門におきましては、輸出では、台湾・インド向け設備輸送や、北米向け三国間の取扱いが期初より堅調に推移し貨物の取扱量が増加しました。輸入では、取扱量は前年並となりましたが、海上輸送のスペース逼迫により、混載便の利用や、航空便への振替が増加し収入を伸ばしました。また、輸出入ともに海上運賃高騰の追い風を受けたため、国際部門の営業収入は104億44百万円余（前年同期は66億91百万円余）、セグメント利益は2億85百万円余（前年同期はセグメント利益77百万円余）となりました。

### ④倉庫部門

倉庫部門におきましては、安定した賃料収入により、営業収入は前年同様の59百万円余となり、セグメント利益は52百万円余（前年同期はセグメント利益50百万円余）となりました。

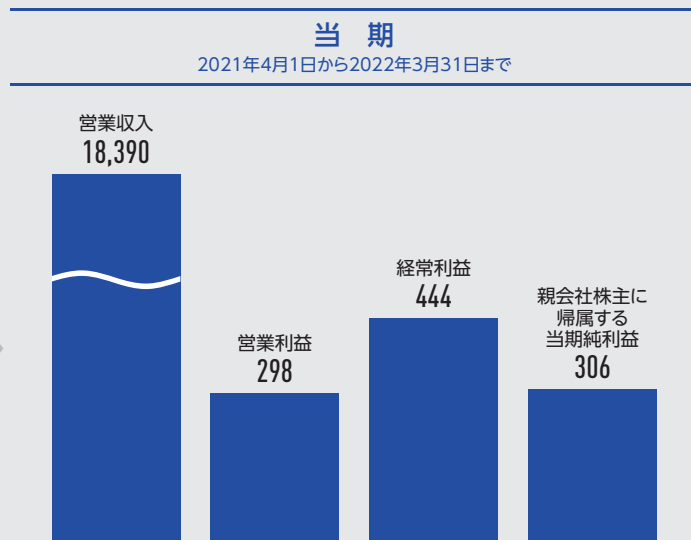
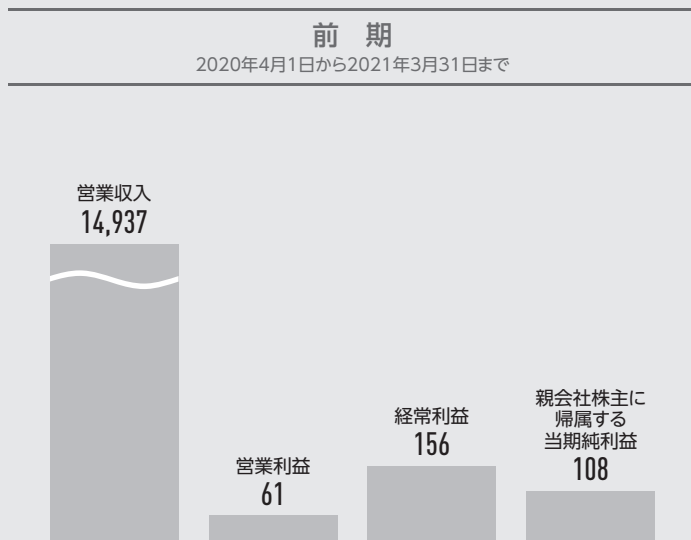
### ⑤その他

船内荷役等の営業収入合計は1億28百万円余（前年同期は1億38百万円余）となり、セグメント利益は10百万円余（前年同期はセグメント利益8百万円余）となりました。

今後の日本経済は、感染力の強い変異株による新型コロナウイルスの感染拡大が引き続き懸念されるものの、拡大防止策の浸透や効果的なワクチン接種の普及により、社会経済活動は徐々に再開に向かい、景気は回復基調となることが見込まれる一方、ウクライナ情勢など新たな地政学的リスクの高まり、原油をはじめとするエネルギー価格、原材料の高騰の影響も懸念され、依然として先行き不透明な状況が続くものと予測されます。従いまして2022年4月以降の経済

## 連結財務諸表（要約）

### 連結損益計算書のポイント（単位：百万円）



（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

情勢はまだまだ予断を許さない状況で推移するものと考えております。また、顧客の物流コスト削減要請に伴う業者間の価格競争激化に加え、新型コロナウイルスや地政学的リスクの影響により、世界各地で需要の乱高下が発生し、世界的な海上コンテナ不足等の国際物流の混乱が長期化しております。それにより、サプライチェーンが停滞し、荷動きに影響を与えることが懸念され、当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況が続くものと思われまます。

このような状況下、景気の動向や経営環境の変化に柔軟かつ迅速に対応し、継続的に安定した収益を確保できる基盤を確立するため、海外拠点の充実強化によるサービスの提供と営業収入の拡大に努める一方、基幹港湾物流施設を有効利用し、安定的な収益源の確保と

高付加価値貨物の取込みにより収益性の向上を図ります。企業活動をWITHコロナ時代に合わせて変革し、同時にオンラインを活用した働き方改革を推進してまいります。また、港湾関連情報ネットワークへの連携を図ると共に、IT関連投資を促進し固定費削減に取り組み生産性を向上させ、顧客からのより一層の信頼を得る海貨系国際物流事業者として、業績の向上を目指してまいります。

今後とも業績向上に全力で取り組み、株主の皆様のご期待に沿うことができますよう努めてまいりますので、格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## トピックス

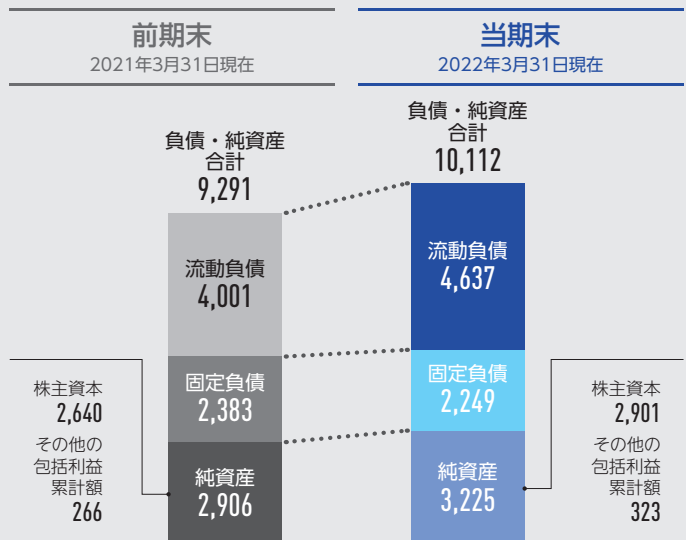
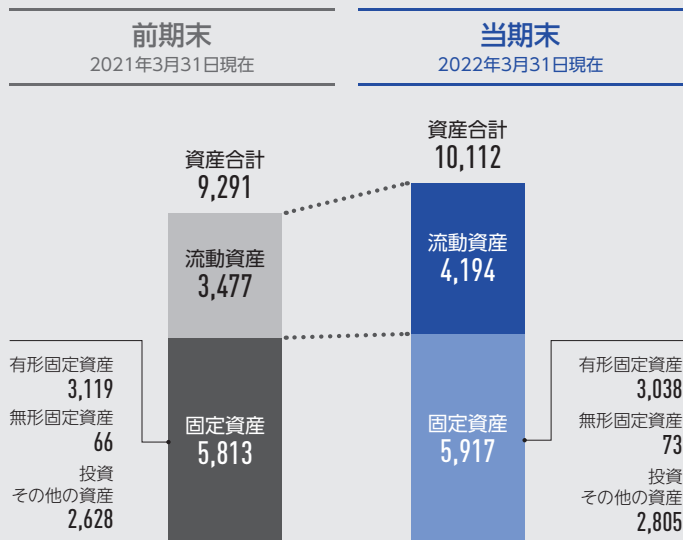
## 記念すべき設立80周年を迎えて

1941年(昭和16年)4月1日、日中戦争が長期化する中、戦時統合に活路を求めて神戸港の海運貨物取扱業者4社が合同し、「大日通運株式会社」(旧社名)が設立されました。社名のいわれは、「大日如来の大日を用いれば縁起もよく、ますます隆盛発展に向かうであろう」、それに通関、運輸の頭文字をあてて「大日通運」と名付けられたと記録されております。

第二次世界大戦中はもちろんのこと、戦後の荒廃な社会情勢の中、逆境にもくじけずに貨物を求めて東奔西走し、大いなる発展を追い求めた諸先輩の意思を引き継ぎ、1994年(平成6年)4月1日トレーディア株式会社へと社名変更し、今日に至っております。記念すべき80周年の節目に、株主の皆様をはじめ、関係各位の長年にわたるご支援、ご協力に心より感謝を申し上げます。次の設立90周年、100周年に向けて、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



## 連結貸借対照表のポイント (単位: 百万円)



(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



■ 会社概要

商号 トレーディア株式会社  
 所在地 神戸市中央区海岸通1丁目2番22号  
 設立年月日 1941年4月1日  
 代表者 代表取締役社長 古郡勝英  
 従業員数 337名  
 営業種目 1.港湾運送業 2.通関業  
 3.普通倉庫業 4.貨物利用運送業  
 5.運送代理店 6.損害保険代理業  
 7.不動産賃貸 8.前各号に関連する一切の事業  
 主要取引銀行 みなと銀行・三菱UFJ銀行・三井住友銀行

■ 事業拠点

関西 本店 神戸支店 大阪支社 六甲物流センター  
 摩耶埠頭倉庫 P.I.L15上屋 神戸西物流センター  
 大阪営業所(築港倉庫) 南港Q1上屋  
 東海 名古屋支店 潮凧物流センター 名四倉庫  
 関東 京浜支店 東京港営業所(城南島物流センター)  
 大井海貨上屋2号棟 横浜営業所(新山下倉庫)

■ 株式の状況

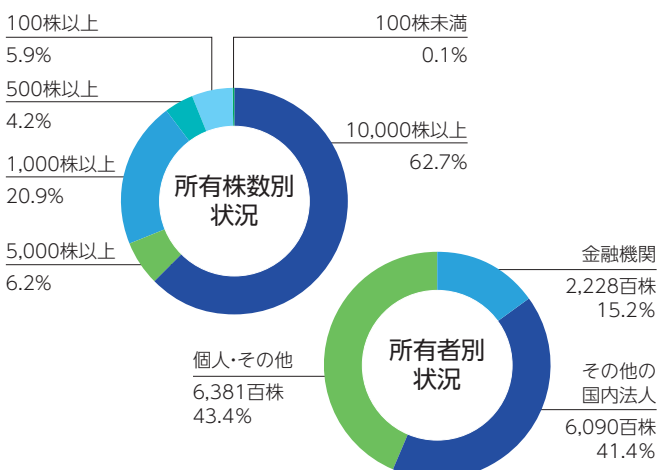
発行可能株式総数 ..... 5,400,000株  
 発行済株式の総数 ..... 1,470,000株  
 株主数 ..... 900名

■ 大株主（上位10名）

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
トランコム株式会社	1,422	9.7
トレーディア株式会社社員持株会	817	5.6
株式会社みなと銀行	727	5.0
丸正株式会社	700	4.8
日本郵船株式会社	687	4.7
三菱UFJ信託銀行株式会社	667	4.5
日本製麻株式会社	569	3.9
株式会社大豊ディピーセンター	500	3.4
前田 慶和	433	3.0
株式会社シンワ・アクティブ	250	1.7

(注1) 持株数は百株未満を切り捨てて表示しています。  
 (注2) 持株比率については、自己株式数(3,653株)を控除して算出し小数第2位を四捨五入して表示しています。

■ 株式分布状況



■ 役員 (2022年6月24日現在)

代表取締役	社長執行役員	古郡 勝英
取締役	専務執行役員/総務本部長	山下 修一
取締役	専務執行役員/営業戦略本部長 兼大阪支社長	増田 裕人
取締役	常務執行役員/京浜支店長	嶋津 清仁
取締役	上席執行役員/海外戦略本部長	吉田 大介
取締役	(社外取締役) 監査等委員	丸山 英聡
取締役	(社外取締役) 監査等委員	中弥 和美
取締役	(社外取締役) 監査等委員	菊池正八州
常務執行役員	名古屋支店長	横山 直幸
上席執行役員	神戸支店長 兼大阪営業所長	森田 勝徳
執行役員	財務本部長	茨木 信弘
執行役員	海外戦略本部長代理 兼海外戦略部長	堀木 靖之
執行役員	総務本部長代理	小林 英之

■ 株主メモ

決算期 毎年3月31日  
 定時株主総会 毎年6月  
 基準日 定時株主総会において、権利を行使すべき株主様は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載された株主様とします。

公告方法 電子公告  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 ☎0120-094-777

1単元の株式数 100株

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いさせていただきます。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

さまざまな情報をホームページを通じて皆様が発信しております。



<http://www.tradia.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい  
 ユニバーサルデザインフォント  
 を採用しています。